



# SAMI NEWS No.29

動物医療発明研究会 2012 January

## 事務局より新年のご挨拶

新しい年になりました。皆様お元気ですか？ 震災の影響は、まだ続きそうですが、できる形でボランティア、ペットシエルター、義援金、チャリティーバザーなど皆が協力して命のぬくもりや大切さ・絆も感じた1年でした。

先生方から送っていただいた原稿と発明研究のアイデアを、少しずつニュースに載せていきますので楽しみにしてくださいね。

また、2月 18(土)19(日)パシフィコ横浜の日本獣医内科学アカデミーでは、動物医療発明研究会として教育講演を頼まれました。眼科学の齊藤陽彦先生および清水邦一・宏子のお役立ちのアイデアをお届けしますので、ぜひ会場にいらしてくださいね。

動物医療発明研究会の総会やセミナーの場所として、小田急線の成城学園駅より徒歩1分の浅井フーズさん、渋谷駅から徒歩8分のインターズーさんの事務所をおかりできることになりました。皆さんとの交流の場になったら嬉しいと思います。

## 1. お手紙紹介

研究会副会長の中山 正成先生と佐藤 剛先生からお手紙を頂きましたのでご紹介いたします。

### ① 会員の皆様

奈良県 中山 正成

動物医療発明研究会の皆様には益々ご活躍されておられることとお喜び申し上げます。私は、当会の副会長を仰せつかっていますが、何も貢献できなくて日頃申し訳なく思っています。このたび事務局の宏子先生から「原稿を書いて！」と厳命(お願い)を受けましたので重い筆を取り始めました。

震災、原発事故、台風被害などと、わが国で今年は大変なことが起きています。そして、円高、株価の暴落、世界規模での経済の失速、さらに日本政府の無力も伴い日本はこれからどうなっていくのであろうかと、国民全体が意気消沈しているのではないかと思います。病院に来院されるオーナーの財布も心なしか固い様に思われます。

思い起こせば、私が開業したのは1974年でもう37年前になります。当時は、フィラリア、ジステンパー、狂犬病の予防(集合注射は年2回)、腸内寄生虫、皮膚病、皮膚膿瘍など感染症の割合が多くありました。検便して駆虫薬を渡す仕事の多いことすさまじかったですね。鞭虫駆虫薬を盲腸に注入するための注入器が発明されました。また、犬も猫も外飼いが多く、交通事故、けんかによる口傷など外傷も多々ありました。そして、骨折治療のための機器の開発も盛んに行われました。フィラリア予防薬がまだないため高率でマイクロフィラリア陽性犬がいました。そしてフィラリア摘出のための開胸手術を行い、ガス麻酔の使用法を日々勉強しました。

頸静脈からのフィラリア摘出術が発明されましたが、摘出のための器具は始め硬性鉗子(アリゲータ鉗子)、次にフレキシブルブラシ、そしてフレキシブル軟性鉗子(フレキシブアリゲータ鉗子)がそれぞれ改良出現しました。

夜、終了時間間際に頭をうなだれた雑種犬が申し訳なさそうに入ってきて、赤いおしっこをするんですと言われます。早速聴診すると心雑音がありその場で局所麻酔を頸部に打ち、犬を押さえつけてフィラリアをつり出します。術後摘出したフィラリア虫体数を数えていますと、みるみる犬は元気になりオーナーから感謝のことばが来る、といった仕事が毎日のようにあり、1日5件手術した日もありました。今となっては全く不要な器具となってしまう、犬には福音ですが、せっかく覚えた技術が使えなくなって何か寂しい感じを持つのは私だけでしょうか。

イベルメクチンは、北里大学薬学部の大村 智教授がフィラリアなど線虫類用抗生物質を作り出す放線菌を静岡県川奈のゴルフ場近くの土壌から分離しました。イベルメクチンの登場により、フィラリアに感染した犬は皆無になったことは喜ばしいことと思います。パルボウイルス性腸炎も猛威をふるい、便の匂いで診断できる程来院しましたが、各種ウイルス性感染症のワクチン、フィラリア予防薬の登場により予防意識が広まって大きな収入源となり、開業医はみんな本当に元気でした。さらに、バブル時代には犬猫の飼育頭数が飛躍的に増えるとともに、欧米の先進的な獣医学がどんどん入ってきて、新しい治療法、手術法を学ぶことに必死でした。感染症の制御が進んでペットの寿命が徐々に伸びてきたことも大きな変化でした。癌の発生や関節疾患など老年病学が必要になってきたことも重要です。高度な機器の導入も進みました。次は超音波検査機を買おうか、内視鏡を買おうか、どちらが有用かといった話題がよく聞かれたものです。

私は、開業初期から整形外科に興味集中しましたが、中でも腰が抜けて後ろ足が立たない犬を多く見て何とかできないものだろうかと研究を始めたのですが、教科書もなくやむなくヒトの医学書を買って求め勉強したことを懐かしく思い出されます。脊髄疾患の診断と治療というテーマがまさにライフワークになりました。そのために発明した物が数多くあります。

平成元年12月末には、日経平均株価が、38,915 円と史上最高値をつけ、その後バブル崩壊が起りましたが、我々開業医に影響が出るのはかなり後になったと思われまふ。私が研修させていただいた、神戸の故佐藤啓一先生は、「どんな不景気になっても、ペットを可愛がる人は必ずいる。そして、世の不景気から何年も遅れてから開業医に影響が出るものだ。我々の仕事は永続する。」と仰っておられたのを思い出します。

このような世情の中で我々小動物開業医は、お国から授かった免許を大看板にして日々仕事を頂いていますが、少しでも便利で、効率よく、動物にもオーナーに優しくさらにお金を生む工夫をしなければなりません。小動物臨床における発明は、我々獣医師に有用で便利で、ペットに恩恵を与えてきました。我が動物医療発明研究会は、会員同士が情報交換し、議論して今後益々活発な活動が期待されます。

中山 正成(なかやま まさなり)1948 年生まれ、北里大学卒業  
中山獣医科病院・奈良市

HP: <http://nara-nakayamavet.com/>

E-mail: [nova@nara-nakayamavet.com](mailto:nova@nara-nakayamavet.com)

1994 年 奈良県立医科大学より医学博士取得

1999 年 北里大学より獣医学博士取得

2005 年 日本小動物外科専門医協会設立専門医・認定

2009 年 日本小動物外科専門医研修施設・認定

病院の紹介や発明はホームページを参照してください。

## ② 『雑感』

埼玉県三郷市 佐藤 剛

ペットに対する農耕民族と遊牧民族の違いとは……

日本人は、有史以来農耕民族としての文化を営々として築いてきた。犬は、番犬として、主人や家族を守り、猫は、収穫した穀物を守り、一種の使役動物として共存共栄

してきた。古代において犬や猫が死んだ場合、貝塚から猫の骨格が見つかるように、現在のように丁寧に埋葬されたのではなく、食べ物の残渣と一緒に扱われたのではないかと考えられる。

一方、遊牧民族が犬や猫を飼育する目的は番犬や食料保護の観点からすれば同様の目的があったように考えられるが、居住地を変え生活するうえで、家族の一員として行動する必要があった。居住地を変えながら食料を確保し生活する民族とでは、犬や猫に対する考え方もおのずから違いが出てくるのは当然のように思われる。現在において、日本人も欧米化してきているとは言え、ペットに対する考え方のちがいは、私たちの日常診療における安楽死の考え方で端的に表れているように思われる。

死に対する考え方は、人権、文化、宗教で千差万別で有るとは言え……

2011.9.25(秋の彼岸にて死について思う)

## 2. アイデア紹介

### ①秋山 和義 先生

東京都八王子市 秋山獣医科病院 TEL 042-625-4111

#### (54) 【考案の名称】 骨折整復に用いる穴開き鋼線

##### (57) 【要約】

【課題】 鋼線を用いた骨折整復において、髓内に通した鋼線を固定する。

【解決手段】 穴をあけ糸を通した鋼線を骨髓に挿入、骨折を復元したのち糸を引きながら鋼線を骨折部に係るように導き、骨折片と共に結紮する。こうすることにより髓内の鋼線を固定することができる。

##### 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 骨折整復の際、骨髓に挿入する複数の穴を開けた鋼線

##### 【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案を施した鋼線

A 穴を鋼線に交叉してあけたもの

B 穴を鋼線に平行にあけたもの

【図2】 この考案の実施状態を示す側面図

【図3】 この考案の実施状態を示す側面図

【図4】 この考案の実施状態を示す平面図

##### 【符号の説明】

1 穴

イ 鋼線の穴に通された糸

ロ 鋼線の穴に通された糸

C この考案の使用状態を示す鋼線

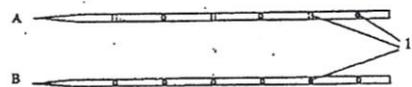


図 1

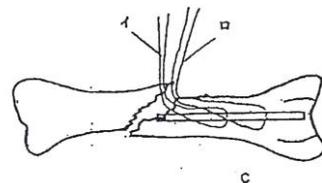


図 2

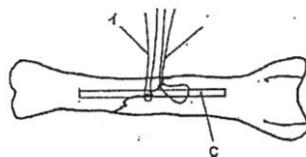


図 3

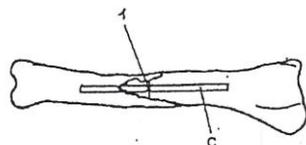


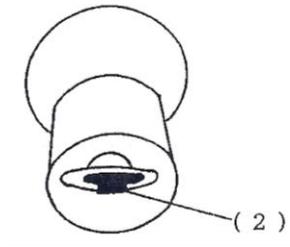
図 4

(54) 【発明の名称】 ドアロック確認マーカー

(57) 【要約】

【課題】 ドアノブの近くまで行かなくても施錠の状態が確認できるようにした。

【解決手段】 ドアノブのロック部に有色テープを貼りつけることで離れた所から施錠の状態を確認する事ができるようにした。

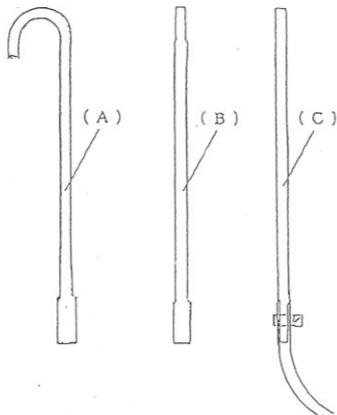


(54) 【考案の名称】 雨樋掃除パイプ

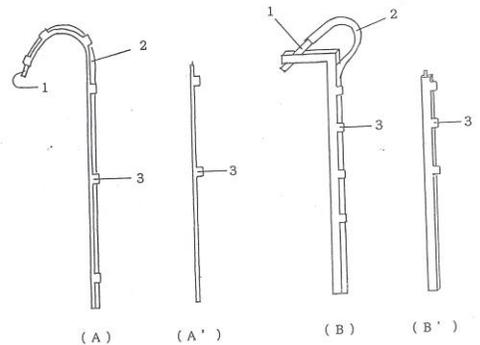
(57) 【要約】

【課題】 屋根に上がることなく雨樋、縦樋の掃除やめづまりの除去ができる。

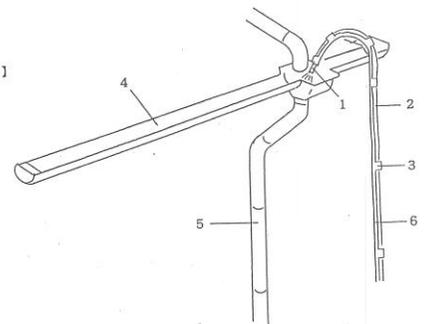
【解決手段】 一端を半月状に曲げたパイプA、これに連結するパイプB、パイプCを連結せしめ一方には水道ホースを取り付けるようにしたパイプC、そしてそれぞれを確実に連結する。



【図1】



【図2】



## ② 平 芳男 先生

熊本県熊本市 タイラ動物病院 TEL:096-366-6775

(自己紹介)

出身は、東京。縁あって熊本で生活しております。熊本に来て 30 年になります。出身大学は、麻布獣医科大学(昭和 55 年卒業)です。現在、タイラ動物病院とゆめ動物病院(妻院長)の 2 病院に関与しております。

(今までに開発した器具)

鈍匙ピンセット(津川洋行で販売しています)

小型犬用マスク(津川洋行)

タイラ式 可変型食器ホルダー(津川洋行)

タイラ式 小型開創器(津川洋行)

タイラ式 ユニバーサル開創器(津川洋行)

スタイレットライト(津川洋行)

カクニン君(津川洋行)

(最近販売した器具)

タイラ型 開口器(津川洋行)

タイラ型 蛇菅固定器具(津川洋行)

(未発売器具)

誰でも簡単に出来る、気管虚脱整復用 PLL 作成棒(MVM に掲載予定でしたが色々ありましてドタキャンされたイワク付きの幻の意一品。25 台作成して全国の気管虚脱の手術が出来る先生に無料で寄贈しました)。

私に関わった器具についてまとめてみました。既に販売されていますので写真の同封は控えさせていただきます。現在も診療の合間をみて器具を開発しています。

### ③ 中山 正成 先生

奈良県 中山獣医科病院 E-mail nova@nara-nakayamavet.com

<http://www.nara-nakayamavet.com>

#### 小型犬の撓尺骨遠位骨折に対する新しい固定法の開発

小型犬の撓尺骨遠位骨折は、最近多く遭遇します。手術において会員の皆様は苦慮されておられることと思います。また、癒合不全になる例も多く見られます。そこで、私が日頃行っている成功率の高い方法を紹介したいと思います。

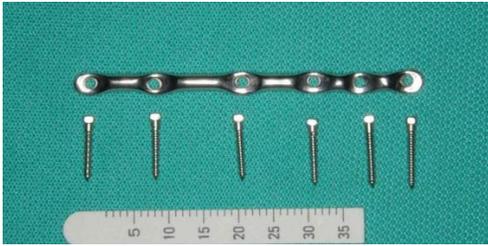
この方法は、函館の川又 哲先生が開発された方法で、学会発表された後、作り方の教えを請いましたが、「失敗するからやめておけ」と言われたため、自分で工夫して作り始めました。もちろん、川又先生の下承を得てからです。

この手法は、プレートと髄内ピンの組み合わせ (Plate Rod Combination:PRC) の方法と同様で、1990 年代に提唱された。それぞれ単体で使用した場合よりも、力学的に優れている。筆者の手法の特徴は、個々の動物に合わせてプレートを自作するいわゆるオーダーメイドのためすばやく手術が行える。

スライド、写真をご覧になれば皆様は理解されることと思いますので、説明は省略します。質問があればメールで質問してください。



症例は、ポメラニアン、10 ヶ月齢、BW4.5kg



プレートは 2.5mm $\phi$  を加工、スクリューは津川洋行 T シリーズ : ネジ TS129



髄内ピン、スクリューホールを開けるときは必ず生理食塩水で冷やしながら行う必要がある。高温になれば、骨組織が死んでしまう。そのため大量の生理食塩水を使用するが、滅菌したペットシートを利用すれば生理食塩水を吸収してくれる。(アイデア!)



### 3. 第8回獣医内科学アカデミー学術大会 セミナーのご案内

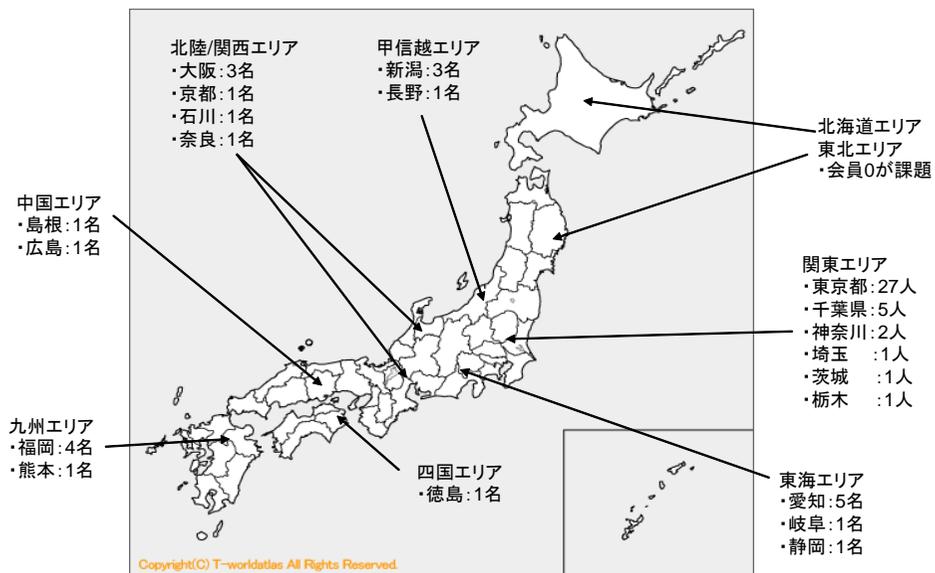
日時：2012年2月17～19日 場所：パシフィコ横浜

- ・2月18日(土)第6会場(4F411+412)16:45 齊藤 陽彦「目から水、血が出た」
- ・2月19日(日)第8会場(4F421)13:15 清水 邦一「臨床のアイデア・ハッピーを見つけよう」
- ・2月19日(日)第8会場(4F421)14:15 清水 宏子「心のアイデア・モチベーションアップのツボ」

### 4. 会員の全国分布図の状況

今年度の活動課題のひとつとして動物医療発明研究会の会員の分布状況をまとめてみました。  
(2011年月末現在62名)

県別・動物医療発明研究会会員分布(62名)



2011年9月末現在

今後の課題として以下のことが挙げられます。

- ・ 北海道・東北エリア会員0の状況をどう打開していくか？
- ・ 他のエリアの会員数をどのように増やしていくか？

今後これらの課題について事務局でも検討していく予定ですが、何か良いアイデアがありましたら事務局までご連絡ください。

**\* 全国各地に会員が増えて、交流が増えると、人生楽しくなりそうですね♥**

**☆ 動物医療発明研究会のホームページを更新しています。登録もできます。**

会員の病院・施設名、〒、住所、TEL、FAX、ホームページURLを掲載します。

ご希望の場合は、件名に「SAMI-HP 掲載希望」と明記して、データをメールにて

[hp@ispecial.co.jp](mailto:hp@ispecial.co.jp)（ホームページ運営受託：株式会社アイ・スペシャル）へお送りください。



**SAMI NEWS 29号**

**発行日 2011年12月31日**

**発行所 動物医療発明研究会事務局**

**発行人 会長 清水 邦一**

**編集人 伊藤 隆**

**事務局 230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3**

**清水動物病院内**

**TEL(045)583-3738 FAX(045)583-3594**

いつでも、どんなことでも、アイデアお寄せ下さい。過去のものでも構いません。ひとりでも役立つ先生がいらっしゃれば、素晴らしいことです。よろしく願いいたします。

**(編集のあとがき)**

先月号(2011年11月)から編集に加わりました「伊藤」です。今年は、「辰年」です。昨年「兔年」に比べて更なる飛躍が期待できる年になりそうです。今後も、皆さんからの「アイデア」や「お便り」をお待ちしております。何かございましたら、事務局(清水動物病院)まで、ご連絡下さい。今年一年が皆様にとっていい年になりますように、心よりお祈り申し上げます。(伊藤 隆)